
Merry christmas?

九重なつき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Merry Christmas?

【コード】

N5617P

【作者名】

九重なつき

【あらすじ】

女の子がプレゼントに欲しかったものは二つ

白い袋の中には夢が詰まっているんだ。

たくさんの子供達の欲しいものがそれぞれの色で包まれて。

僕自身は中身なんて知らないんだ。

だって夢なんてそいつだけのもんだろ？決して怠惰なわけじゃない。

Santa Claus is coming to town .

そんな歌が聞こえて来たんだ。まずはこの家行っちゃおうかな。

トナカイを止めて、子供部屋に狙いを定めて入る。

すると暗かった部屋に突然電気が付いた。

眩しい。

「・・・待ってたの！あたし待ってたの」

小さな女の子がこっちを見ている。

さては寝たふりして待ち伏せしてたな？可愛いもんだ。

「僕を？良い子は寝る時間だよ」

「あたし、あなたに会いたかった」

「そうかいそうかい。じゃあこれはプレゼントだよ」

僕は袋からピンク色の小さな箱を選んで取り出す。

この子のはこれだって、この帽子を被ると何故か分かったっちゃうんだ。

「はい。Merry Christmas!」

小さい女の子は目を爛々とさせて夢中になって箱を開いた。
僕は次の家をどこにしようか考え始めていた。

「わあ……。あたしこれが欲しかったの」

小さい女の子のプレゼントも大当たりらしい。
まあ間違いなんてあるはず無いんだけどさ。

「ほんとに欲しかったの。だから今びっくりしてるわ」

小さい女の子が僕の傍に寄ってきた。

喜んでもらえるのが僕の1番の幸せだ。なんてね。

「ありがとう。本当に嬉しいわ」

「そうかい。それは良かった。ところでそれは、ナイフかな？」

小さな女の子には不似合いに思えた。

「そうよ。これでそろったの」

意味を理解しようと頭で台詞をリピートしようとした途端

腹に鈍い衝撃がきた。

視界が低い横向きになった。

爛々とした目の鋭い女の子の顔が見える。

小さな口が動く。

「私、知ってるんだから」

これは憎悪の顔だ。

「あなたがお父さんを殺したって知ってるんだから意識が持っていられる。」

（ああ、それじゃあこいつはサンタの・・・）

くそっと思うが声にならない。

あの日から鳴かないトナカイの声が外から聞こえてきた。

(後書き)

元ネタは英語の授業中やらされたコントより

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5617p/>

Merry christmas?

2010年12月18日14時09分発行